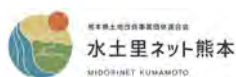


広域組織ひとつでたすけあう 地域のちから・つながる未来

熊本県土地改良事業団体連合会
久保田 修



～令和5年9月に国宝指定～

熊本県山都町に所在する「通潤橋」は嘉永7年（1854年）に建設された石造水路橋で、土木構造物が国宝に指定されるのは全国初である。

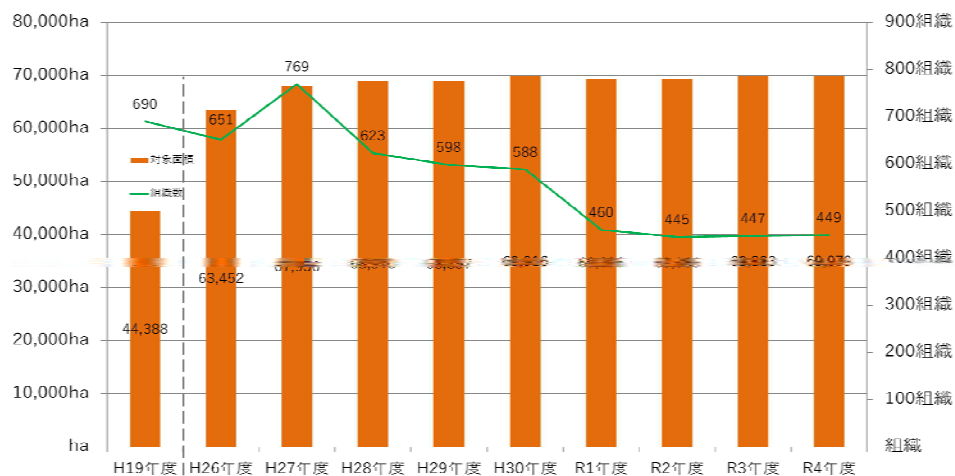
画像：山都町より提供

1

目次

- 01 - 本県の取組概要
- 02 - 激甚災害からの復興
- 03 - 田んぼダム of 取組み推進
- 04 - 理想の広域組織とは
- 05 - 未来につなぐ くまもとの地下水
- 06 - さいごに

	平成 19年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度
市町村数	42	42	44	44	44	44	44	44	44	44
組織数	690	651	769	623	598	588	460	445	447	449
うち広域活動組織	—	43	44	48	49	49	54	54	54	54
対象面積（ha）	44,388	63,452	67,956	68,910	68,857	69,916	69,396	69,366	69,883	69,979



県内対象市町村数、対象組織、対象面積の推移（農地維持支払）

○地目別交付金対象農用地と農振農用地に対する割合（令和4年度）

	交付対象農用地面積（ha）	農振農用地R4面積（ha）	カバー率	【参考】全国カバー率
全 体	69,979	116,100	60%	56%
田	43,486	57,673	75%	66%
畑	12,451	33,326	37%	46%
草地	14,042	25,101	56%	44%



阿蘇地域の野焼き

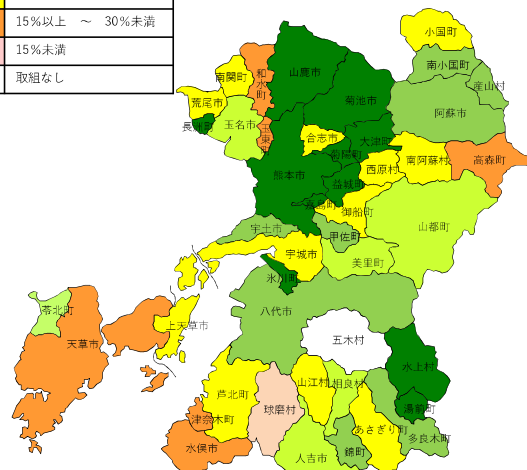


輪地切り（防火帯づくり）

- ◆ 熊本県では、県特有の「草地」の現状から野焼きの対象となる農用地についても対象とすることとしており、交付対象農用地の増加につながっている。

～市町村別 農振農用地に対する交付金対象農用地の割合～

75%以上	～
60%以上	～ 75%未満
45%以上	～ 60%未満
30%以上	～ 45%未満
15%以上	～ 30%未満
15%未満	
取組なし	

熊本県内取組み市町村数
～44市町村／45市町村～

02

平成28年熊本地震

- ◆ 平成28年4月14日16日に益城町、西原村で最大震度7を観測する**前震・本震**が発生。
- ◆ **震度7**を28時間以内に**2回**観測したのは我が国の**観測史上、初めて**。
- ◆ 震度1以上を観測した回数は、平成30年4月末時点で**4,484回発生**。
- ◆ 県内人的被害は、死者**216人**、重軽傷者**2,673人**。



02

農地等の被害概要

平成28年 熊本地震

部 門	件 数	被害額 (億円)
田	7,674	217.8
畑	3,498	53.8
農業用施設	4,970	392.0
生活関連施設	3	2.8
その他	70	35.0
合 計	16,215 件	701.4億円

熊本県内過去最大の被害額

農 地



【農地の亀裂】上益城郡益城町



【農地の亀裂】阿蘇市



【農地の崩壊】阿蘇郡南阿蘇村

用水路



【管路の破損】阿蘇郡西原村

農 道



【路面の損傷】阿蘇市



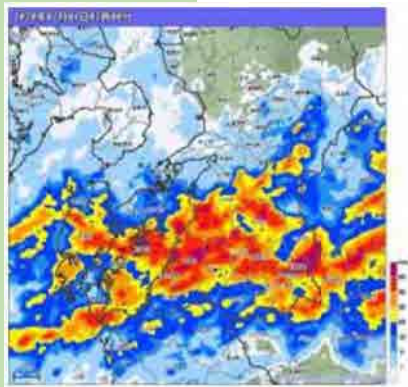
【路面の損傷】上益城郡益城町

02

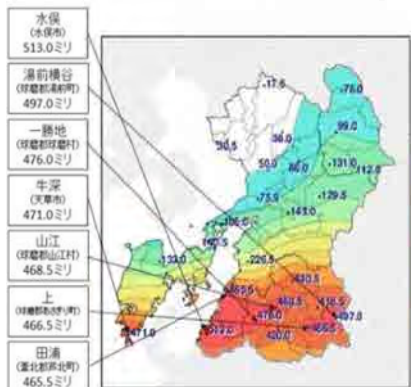
令和2年7月豪雨

- ◆ 令和2年7月4日未明から朝にかけて県の南部を中心に局地的に**猛烈な雨**が発生。
- ◆ 12時間降雨量は、**県南9地点**(球磨川水系)で**観測史上1位**を記録。
- ◆ 県内人的被害は、死者**65**人、行方不明者**2**人、重軽傷者**51**人。
- ◆ 県内建物被害は、全・半壊が約**4,600**棟、床上・床下浸水が約**720**棟。

【7月4日の線状降水帯】



【7月3～4日におけるアメダス総降水量分布図】



9

02

農地等の被害概要

令和2年7月 豪雨災害

部 門	件 数	被害額 (億円)
田	8,488	158.6
畑	2,535	45.3
農業用施設	4,166	200.1
生活関連施設	3	1.4
その他	3	0.1
合 計	15,195 件	405.5億円

熊本県内過去2番目の被害額

農 地



【土砂流入】球磨郡相良村



【土砂流入・流失】球磨郡相良村



【土砂流入・流失】球磨郡球磨村

ため池



【土砂流入】葦北郡芦北町

排水路



【水路流失】球磨郡球磨村

頭首工



【頭首工破損】人吉市

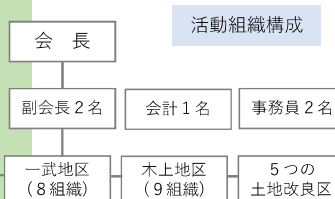
10

組織名：錦町農地・水・環境保全管理
協定運営委員会

協定面積：A=984ha

保全管理施設：水路L=203km、道路L=85km

主な構成員：農業者、子供会、老人会、
消防団、土地改良区



町内全域が活動エリア

7月3日～4日早朝

豪雨発生

7月6日～

- ◆ 各校区の役員に集合を呼びかけ、町内全域の農地・農業用施設の被害状況調査を実施。

7月8日～

- ◆ 錦町及び土地改良区と協議を行い、「まず第一に用水を確保」を合言葉に、本交付金の「異常気象後の応急措置」を適用し、活動を実施。
- ◆ 活用実績として、用排水路の土砂上げ等（127件）、農地への土砂撤去及び小規模な法面補修（52件）、農道の補修（40件）を実施。



被災直後の農用地



町内全域の被害状況調査



応急措置による土砂撤去

11

多面的機能支払交付金を活用した自力復旧が早期の営農再開に大きく貢献

自助・共助の推進



平成28年
熊本地震



水路復旧【阿蘇地域農地・水・環境保全管理協定運営委員会】（阿蘇市）

熊本県での交付金活用実績

活用額	約17,100万円
活用面積	約19,477ha

令和2年7月
豪雨災害



水路復旧【錦町農地・水・環境保全管理協定運営委員会】（球磨郡錦町）

熊本県での交付金活用実績

活用額	約3,500万円
活用面積	約1,363ha

12